

世界の園芸道具を探して part1

－知らなかった、園芸道具会社の歴史－

世の中にはいろいろな道具があり、園芸道具も数多くある。今まで、どのような園芸道具会社があるか、まったく知らなかったが、今回、様々な園芸道具を通して、園芸道具の奥ゆかしさを感じた。園芸道具にもブランドたるおもしろき世界があったのである。そこで本新聞では、世界の園芸道具の会社を調べ、その歴史を探った。

ここでは part1 とした。しかし、part2 があるかは、分からない(〃 〰 ▽ 〰) ぽっ。

Burgon & Ball 社 ¹⁾より改変 

1730 年の刃物工場から歴史が始まった。1873 年に現在のイギリスのシェフィールド西部に移り、1880 年に入って羊毛用はさみで Burgon & Ball の名は世界へ広まった。今でも羊毛用のはさみは世界のトップクラスのシェアを誇っている。企業の成長とともにその技術を園芸道具へ発展させる。Burgon & Ball の道具には、使って初めてわかる品質の良さがある。全世界でトップクラスのシェアを誇り、信頼される老舗刃物メーカーとして長年高い評価を得ている。当所有の Burgon & Ball 社は、刃物ではないが、プランターがある(植いき新聞 第8号 参照)

DeWit 社 ²⁾より改変 

1898 年 4 月、初代 Willem de Wit はオランダのフローニンゲンに近いコルンホルンという小さな村で鍛冶工場を始めた。彼は馬の蹄鉄を使ってケトルの補修や農具の修理をする鍛冶職人であった。2 代目の Derk と Martinus は、国中のあらゆる所から調達した良質な鋼だけを使って優れた鋤や鍬を作り、今日の品質と製造技術の礎を作った。3 代目の Willem と Klaas は 1960 年代に道路建設のために使う強固なツールを作り始め、品質と製造技術を進化させた。現 4 代目の Sietse、Derk と Derk-Klaas は、世界各国に販路を求め、それぞれの国のユーザーのニーズに応えながら「DeWit Garden Tool」ブランドを世界へ広めた。DeWit 社のガーデンツールは世界 23 カ国を超える国々の造園家やガーデニング愛好家に愛用され、その性能と品質は高い評価を得ている。当所有の DeWit 社は、スコップがある(右写真 ²⁾より)。

外山刃物社 ³⁾より改変 

外山刃物の創業は、江戸時代の文久年間にさかのぼる。以来、越後木鋏の宗家として、初代龍松(銘：龍松)、二代目富次郎(銘：珍龍)、三代目秀吉(銘：龍山)、四代目秀久(銘：秀久)が、金物の町三条で父祖伝来の技術を受け継いでいる。現在は火造り鍛造や裏砥ぎや合い刃どりなど伝統の技の確かさで、高い評価を得ている。宗家の誇りをもって、「より良い刃物鋼」「より良い切れ味」「お客様を大切に」をモットーに、利用者に末長く愛用できる確かな製品を提供し続けている。当所有の外山刃物社は、宗家秀久 お花鋏 古流型がある(右写真 ³⁾より)。

これらの道具は、少々値は張るも、長く愛用でき、かつ、使って楽しい利点がある。そのため、これから先も大事にし、使った味わい(園芸味)をそれがしの園芸史として刻みたい(〃 〰 ▽ 〰) ♪ のお。

植
い
っ
き
新
聞



植物いきいきサークル

第41号

発行者：犬丸



1) <http://lifetime-g.com/?mode=cate&cbid=457093&csid=0> と <https://www.burgonandball.com/> (閲覧:2014.12.20)

2) <http://www.dewit.jp/hist/index.htm> と <http://www.dewit.eu/index.html>, <http://item.rakuten.co.jp/toolbox/dewit-4764/> (写真) (閲覧:2014.12.20)

3) <http://toyamahamono.com/index.html>, <http://lifetime-g.com/?pid=26200261> (写真) (閲覧:2014.12.20)